

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：26025
学校名：藤野南小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果	分析
体力・運動能力 <男子>	<p>○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、長座体前屈</p> <p>○前回の記録より下回った種目 反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、上体起こし、立ち幅跳び、ソフトボール投げ</p>	<p>・体を動かして遊んでいる児童が多く、筋力が全国平均より高い結果となった。また、昨年まで課題となっていた、柔軟性もやや改善した。筋持久力、投能力が全国より低い結果となっている。</p>
体力・運動能力 <女子>	<p>○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力</p> <p>○前回の記録より下回った種目 上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ</p>	<p>・筋力については全国を上回る結果となった。体育の授業を中心とした運動時間の保障により一定の成果が見られるが、昨年に続き筋持久力、投能力が全国より低い結果となっている。</p>
運動・スポーツへの意識 運動習慣	<ul style="list-style-type: none"> 「運動やスポーツをすることが好き」 男子：全国 93.4%、本校 96% 女子：全国 85.8%、本校 88.4% 「週に 420 分以上の運動をする」 男子：全国 48.1%、本校 75% 女子：全国 26.5%、本校 30.8% 「朝食を毎日食べている」 男子：全国 82.5%、本校 88% 女子：全国 80.4%、本校 72% 「1日（平日）に3時間以上スクリーンを見ているか。」 男子：全国 42.7%、本校 43.4% 女子：全国 37.4%、本校 46.1% <ul style="list-style-type: none"> 「体育の授業は楽しい」 男子：全国 94.6%、本校 88% 女子：全国 88.1%、本校 84.6% 「体育の授業を除く 1 週間の総運動時間が 60 分未満のほとんど運動をしない子ども」 男子：全国 9.8%、本校 4.2% 女子：全国 17.3%、本校 7.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・週に 420 分以上の運動をする児童の割合は、男女ともに全国と比べて高くなっている。 ・全国に比べて、運動やスポーツをすることが好きと答えた児童の割合が高い。しかし、運動する時間や、体育の授業への意識に個人差が見られる。 ・運動をする時間を楽しいと感じて欲しい。そのためにも、運動量の確保をはじめ、単元に応じた課題の個別化と学習展開の工夫、および学習の場の工夫が求められる。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実

具体的な取組

「元気」に体を動かし、運動の楽しさを味わうことができるように

- 投能力、筋持久力**を意識した運動の場や準備活動の工夫
- 全学年共通の準備体操**の取組（ふじみな体操）
- 教材に応じた**課題の個別化とルールや作戦を子ども自身で工夫して運動を楽しめる**学習展開の工夫、**運動量を確保**し、伸びを実感できる授業づくりの推進
- ICTを活用した学習活動の充実
- スポーツ関連施設、人材を活用した体験的な学習活動の充実
- 跳び箱・マット週間の設定**
- 地域との連携：ポッチャ体験、スキー学習におけるボランティアの活用・充実

遊びを通して友達との関わりを学び、楽しい時間を友達と共に創り、「元気」の花を咲かせるために

- 児童が思わず体を動かしたくなるような場づくり**の推進（ドッジボールコートの新設、ジャンピングボード、グラウンドにバスケットボールゴールの設置、竹馬コーナーの設置）
- 毎週水曜日の中休みのスマイルデー**を活用して、たくさん運動する楽しさを味わう。（サッカー、バスケットシュート、ミニバレー、バトミントン、ボール投げ、卓球、大縄とびなど）

自分から心身の健康を考え、「元気」の花を咲かせるために

- 自分をみつめる（心・体・生活リズム）、他者と関わる（友達・家族・地域の中で）、自分に問いかける（自分への気付き・命の大切さ）ことのできる環境・指導内容の工夫…体育科、道徳科、養護教諭との連携による性に関する指導、子どもの現状に合わせた日常的な健康教育
- 地場産物の活用と栽培活動…「健やかな体を育む」食に関する指導の更なる充実
- 北海道の食材や郷土食、行事食**…北海道を食べよう（北海道の農水産物・郷土料理）・行事食（お正月・節分等）

家庭・地域との連携・協働

- オリンピック・パラリンピック教育では、地域から講師の先生を招いて、ポッチャ体験を行う。
- 児童アンケートや保護者アンケートを活用する。
- 文書・掲示物を通した望ましい生活習慣、食習慣の推奨